

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視 点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ①専門性を追究した教育活動を充実させる。 ②商業と工業の連携による特色ある教育活動を実践する。 ③学力及び技術技能の基礎力を確実に定着させる。 ④学習指導方法の改善を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①③基礎学力の定着を図るとともに、共通教科及び専門教科の発展的学習を充実させ、上級の資格取得を目指す。 ③スタディサプリの活用により、基礎学力の定着及び家庭学習の習慣化を図る。 ④「主体的・対話的で深い学び」を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①計画的に特別講習を実施するなど、生徒のモチベーションの高揚及び資格取得率向上につながる指導を充実する。 ①③スタディサプリの活用を指導・支援し、生徒の基礎学力の定着及び家庭学習の習慣化に結び付ける。 ④電子黒板の活用等ICTの活用を含めた授業改善により、「主体的・対話的で深い学び」を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①日商簿記3級、計算技術検定・情報技術検定の合格率は向上したか。上級の資格取得の受検者は増加したか。 ③スタディサプリの分析等により、家庭学習の取組状況が向上したか。 ④「生徒による授業評価」結果の分析等により、課題について自分の考えをまとめたり、他者の考えを知る機会が増えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①日商簿記3級、計算技術検定・情報技術検定等において、合格率が向上した。また、校内講習を実施して電気工事士1級等の受検者を指導し、上級資格の合格につながった。 ③スタディサプリの到達度テストアンケートからは、家庭学習習慣の向上はみられなかった。 ④「課題について自分の考えをまとめたり、他者の考えを知る機会が増えた。」と回答した生徒が、全科目平均で昨年度と比較し、0.1ポイント向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①今後も学習に向かう態度の育成及び上級資格の取得を目指す指導を継続し、より上級の資格に挑戦する生徒の増加につなげる。 ③スタディサプリの活用を推進し、学習に対するモチベーションの向上及び継続的な家庭学習習慣の定着に結び付ける。 ④科目により「主体的・対話的で深い学び」の実践に差がある。ICTの活用等の授業改善により、全科目での実践を目指したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①継続して資格取得の合格率の向上を目指してほしい。 ③スタディサプリの活用率を上げ、家庭学習の習慣を定着させてほしい。 ④Jamboard等を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践は評価できる。今後も対話的な学習活動を増やし、生徒の資質・能力の育成に努めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①資格取得に一定の成果をあげることができたが、さらなる向上を目指す必要がある。 ③スタディサプリのさらなる効果的な活用が課題である。 ④iPadを活用した教育活動をさらに整備し、生徒の資質・能力の育成につなげる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①資格取得を目指す意識を涵養するとともに、計画的な特別講習を実施する。 ③課題配信方法等を改善するとともに、生徒の取組状況を把握し、必要に応じて指導・支援を行う。 ④教職員のICT活用能力を高め、ICTを活用した授業改善を図る。
2 生徒指導 ・支援	<ul style="list-style-type: none"> ①基本的生活習慣の確立を図る。 ②社会人基礎力と豊かな間性を育む。 ③主体性を育み自立した人間の育成を図る。 ④教育相談体制の充実を図る。 ⑤学校行事や特別活動及び部活動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②基本的生活習慣を確立するとともに、自己肯定感を育む。 ④多様な生徒に対応するため、SC及びSSWを活用し外部機関との連携を図るとともに、校内組織を充実させる。 ⑤部活動加入率の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②生徒会、保護者及び各種機関と連携した指導を行い、自己肯定感の涵養につなげる。 ④生徒情報の共有を徹底するとともに、SCや外部機関等と連携した教育相談体制を整備して生徒支援を充実させる。 ⑤入学当初の部活動紹介等の企画により加入率の向上を目指すとともに、感染症対策に配慮した上で特色ある学校行事を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②組織的・継続的な指導により、次の事項が達成できたか。○挨拶をする生徒が増えたか。遅刻防止指導を年5回実施し、遅刻の回数が減少したか。○服装・頭髪指導対象の人数が減少したか。 ④本校の教育相談体制を生徒及び保護者等に周知し、教育相談を活用しやすい環境を整備できたか。 ⑤部活動加入率が向上したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②生徒会役員による挨拶運動等により、挨拶をする生徒が増えた。また、身だしなみ指導の件数は、昨年度に比べ若干減少した。 ④スクールカウンセリングを効果的に活用できた。またケース会議の開催や情報提供・共有の体制を整備して、個々の生徒の支援につなげることができた。 ⑤新入生向けの部活動紹介においては、感染症対策もあり、各部活動の紹介動画の視聴という工夫を行なって加入率向上を目指したが、例年と同程度の約40%加入率にとどまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②今後も挨拶を含め基本的生活習慣の確立につながる指導を継続する。また、そのために保護者及び各種機関とも連携を密にしていく。 ④スクールカウンセリングをさらに効果的に活用するため、生徒及び保護者への周知に努める。また、今後も生徒情報の共有体制を整備し、組織的な支援体制を構築していく。 ⑤今年度同様、部活動紹介動画を学校説明会でも活用し、本校志願者に部活動加入への動機づけを行う。また、部活動への支援体制を整備し、部活動の魅力を生徒に発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②継続して基本的生活習慣の確立を目指してほしい。 ④教育相談体制を活用して、支援を続けてほしい。 ⑤高校生にとって、部活動への参加は大切なことである。加入率を高めるためには、部活動のあり方等を検討することも、今後は必要となるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②基本的生活習慣の確立につながる指導を継続し、地域から信頼される学校づくりを目指す必要がある。 ④今後も課題のある生徒の情報を共有し、組織的な支援体制を構築する必要がある。 ⑤感染症対策等により停滞気味となった部活動を活性化する取組が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②効果的且つ組織的な指導体制を整備するとともに、地域との協働体制を整備する。 ④来年度来校数の増加するSC・SSW等と連携し、有効な教育相談を実施する。 ⑤生徒に部活動の意義を伝えるとともに、活性化につながる支援体制を整備し、50%以上の部活動加入率を目指す。
3 進路指導 ・支援	<ul style="list-style-type: none"> ①実際の・体験的学習の機会拡大と充実を図る。 ②勤労観や公共心、社会奉仕の精神を涵養する。 ③進路相談体制の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学年段階におけるキャリア教育の充実を図る。 ②進路未決定者をゼロにする。 ③進学・就職にかかる事故防止を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①外部業者を活用するなど効果的な進路ガイダンスを実施する。 ②進路ガイダンス等とおし、生徒自身の進路について真剣に考える態度を養い、個々に指導・支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②生徒の主体的な進路実現に向けての取組が向上したか。またその結果として進路未決定者をゼロにすることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②計画的な進路ガイダンス実施等のキャリア教育の整備により、主体的に進路を実現しようとする生徒が増えた。また、その希望進路実現をサポートすることができ、就職者の第一希望内定率が90%を超えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②成績不振やその他の事情等により、進路活動開始が遅れてしまう生徒への指導を、担任とも協力しながら行う。また、継続して進路未決定者ゼロを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②進路未決定者をほぼゼロにできたことは評価できる。また、内定率の高さからも充実した進路指導体制が確立できていることは評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①継続して計画的なキャリア教育を実践し、卒業後の進路活動がスムーズにいくよう指導・支援する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①キャリアパスポートの活用も含め、キャリア教育の更なる整備を続けるとともに、より効果的且つ効率的な進路指導を行う。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
				③チェックシートを見直し、複数によるチェック体制を徹底する。	③進路にかかる事務処理において、事故ゼロを実現できたか。	③業務マニュアルの整備により複数によるチェック体制を機能させ、事務処理においては事故ゼロを実現できた。	③今後もマニュアルの整備及び確実なチェックに体制の実施を継続し、事故ゼロを実現していく。	③進路にかかる事務処理において事故ゼロを実現できたことは評価できる。	③継続して進路にかかる事務処理において事故ゼロを実現する必要がある。	③継続して業務マニュアル等に基づき、確実な事務処理及び点検体制を実践する。
4	地域等との協働	①学校運営協議会制度を活用した、地域との協働を図る。 ②広報活動を充実させ情報の発信を推進する。	①地域やOB等の外部講師の活用した教育活動を実践する。 ②ホームページによるタイムリーな情報発信を行う。 ②中学生及びその保護者に向けたPR活動を充実させる。	①3学年の「課題研究」において、地域やOB、連携企業との協働をすすめる。 ②ホームページの更新をこまめに行うとともに、本校の魅力を発信するデザインを工夫する。 ③本校の教育活動について、中学生及びその保護者だけでなく、中学校へのPR活動も充実させる。	①②生徒の学びに地域やOB等が関わり、成長を促すことができたか。 ③入学志願者倍率が前年度より上昇できたか。	①3年必修科目の「課題研究」においては、連携企業、OB及び上級学校との協働をすすめる、実りのある成果につげることができた。 ②ホームページの更新をこまめに行うとともに、デザインにもマイナーチェンジを加え、本校の魅力を発信し続けた。 ③中学校教職員向けのリーフレット作成やこまめな中学校訪問及び学校説明会の回数増加など、本校の広報活動に工夫を加えてPRに努めた。	①連携企業、OB、地域や上級学校等との協働をさらにすすめる、生徒の成長につながる学習活動を確立する。 ②今後も本校の魅力を発信するホームページの更新等に努める。 ③総合技術科志願倍率0.90倍、総合ビジネス科1.08倍であった。今後も本校の魅力を中学校等に発信し続け、志願者の増加につなげる。	①企業や上級学校との連携をすすめていることは評価できる。 ②ホームページの更新状況から、広報活動に力を入れていることは評価できる。 ③専門学科高校としての教育内容及び施設・設備の充実等をさらにアピールし、志願者の増加につなげてほしい。	①来年度に向けさらに連携をする企業及び上級学校の開発ができた。 ②ホームページにおいては、更新回数が200回以上に及んだだけでなく、より魅力的な内容となるようデザインにも修正を加えた。 ③本校の魅力をアピールする活動を工夫したが、成果につなげることはできなかった。	①連携を整備し、生徒の成長につながる学習活動を確立するとともに、地域との連携もすすめる。 ②より本校の魅力を発信できるホームページとなるよう改善を加えるとともに、より積極的な広報活動を行う。 ③専門学科高校の魅力及び本校の特色を伝える広報活動を展開し、志願者の増加につなげる。
5	学校管理 学校運営	①ミッションに沿った学校経営の推進を追求する。 ②安全安心な学習環境を維持構築する。 ③教育公務員としての規範意識を醸成するとともに、風通しの良い職場環境を構築する。 ④働き方改革の視点に立ち長時間労働の解消に取り組む。	①商業教育と工業教育の連携強化により、職業人の育成を目指す。 ②スチューデントファーストの視点に立った教育活動を実践する。 ③不祥事防止を徹底する。 ④職場環境や業務内容を見直し、働き方改革に取り組む。	①総合ビジネス科・総合技術科両科の協働的な学習活動を通して相互理解を深め、職業人の育成につなげる。 ②生徒が安全安心に学校生活を送ることができる環境づくりを推進する。 ④会議方法を見直し、時間の削減やペーパーレス化をすすめる、業務の効率化を目指す。	①生徒が商業と工業のそれぞれの教育に対する理解を深め、職業人として成長できたか。 ②安心安全な学習環境の維持構築が実現できたか。 ④会議時間を前年度比3割程度削減できたか。	①両科による合同課題研究発表会の実施や両科共通選択科目の設置により、両科の生徒が相互に学び合う機会を設け、生徒の成長につなげるができた。 ②DIG訓練を工夫するなど防災教育に努めたほか、学校施設の整備をすすめて学習環境を整備した。 ④Teamsなどの活用により会議のペーパーレス化や情報の共有を推進し、会議時間の削減を実現することができた。	①両科の相互理解及び協働をすすめるための行事や学習活動を工夫し、職業人の育成につなげる。 ②災害時のみならず、日常生活においても安全な生活を送ることができるような環境づくりに取り組む必要がある。 ④Teamsの活用等について学校全体で共有し、さらなる業務の効率化につなげる。	①両科の協働をさらにすすめるとともに、育成を目指す職業人の具体像を示すことも検討してほしい。 ②DIG訓練などを実施し、防災教育に努めていることは評価できる。災害時の地域における役割も検討してほしい。 ④Teamsの活用など、業務の効率化に取り組んでいることは評価できる。	①両科の協働をさらにすすめる、二科を擁する本校の特色を追求する必要がある。 ③防災教育の整備をすすめるとともに、地域における災害時の役割も検討する必要がある。 ④継続して業務の見直し及び効率化をすすめるとともに、Teamsの活用を職員に周知する必要がある。	①両科の協働についての検討をすすめる、本校ならではの教育活動を展開する。 ②実習時における発災などの事態を想定した避難訓練や、体育館改修工事にともなう災害時の対応を検討する。 ④業務の見直しとともに職員の職務遂行能力を高める研修を実施し、効率的な業務運営をすすめる。